

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 山口県 】

学校名【 萩市立大島小中学校 】

1 実践テーマ	V
2 実施対象者	萩市立大島小中学校（萩市の規則による小中一貫校） 全校児童生徒45名（小学校26名、中学校19名）、保護者30名
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ ） ② 行事名（オリ・パラ講演会、スポーツ教室） ③ その他（保健体育委員会の活動） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックをめざすトップアスリートとの関わりを通して、児童生徒が自身の健康管理やけがの防止、体力向上に対する意識を高め、自らの生き方についてより深く考えることができるようになる。 ・これまでに体験したことのない種目（ラグビー）の体験を通して、東京オリンピック・パラリンピックへの興味関心をより一層高めるとともに、自らの運動習慣の定着・改善の契機とする。
5 取組内容	<p>1. 事前学習「アスリートの健康管理方法を知ろう」</p> <p>（1）アスリートにアンケート調査を実施する。</p> <p>離島では救急搬送ができず、自分自身で健康管理をする必要性が高いことから、保健体育委員会の活動として、アスリートの健康管理方法について調査することにした。調査方法として、山口県出身のアスリートを中心に手紙による質問調査を行った。児童生徒は、世界で活躍したり、自身が取り組んでいるスポーツの世界で活躍したりしている選手と直接やりとりができるということに強く興味をもち、意欲的に取り組んだ。</p>



(2) 調査結果をポスターにまとめて文化祭で展示する。

山口県下関市出身でリオ五輪柔道100kg 超級銀メダリスト原沢久喜選手のほか、バスケットボールWリーグやサッカーJリーグで活躍する選手、計5名から回答をいただき、その内容をまとめたポスターを作成した。作成したポスターは文化祭で特別ブースを設けて展示し、全校児童生徒や保護者、地域の方々の健康管理に対する意識の向上を図った。



2. 「ラグビー体験をしよう」

(1) ながとブルーエンジェルの選手による講演会

7人制女子ラグビーチーム「ながとブルーエンジェルス」の選手とスタッフ計7名の方を招いて、日本一への道のりを紹介した動画を視聴後、トップアスリートとしての心構えや健康管理、体力向上等をテーマに講演をしていただいた。ラグビーワールドカップの影響もあったからか、講演後の質疑応答では多くの児童生徒からたくさんの質問が出るなど、児童生徒の関心の高さがうかがえた。



(2) ラグビー教室の実施

体育館での講演会終了後、グラウンドに出てラグビー教室を行った。児童生徒は学年別に3つのグループ(小学1～3年生、小学4～6年生、中学生)に分かれ、それぞれの発達段階に応じたラグビーの練習を体験した。独特な形のボールの投げ方やそれに合わせた走り方、瞬間の判断力を高めるための練習等を通して、ラグビーの魅力を分かりやすく教えていただいた。最後にグループ毎にタッチフットボールの試合でながとブルーエンジェルスに挑み、グラウンドを走り回った。



6 主な成果

- 東京オリンピック・パラリンピックを迎えるにあたり、複数のアスリートと直接話したり、手紙のやりとりをしたりしたことにより、彼らの活躍する姿を身近に感じる事ができ、児童生徒の健康、体力の自己管理に対する意識が高まった。
- ラグビー教室後、本校に寄贈していただいたボールを使って、休み時間にラグビーをする児童生徒の姿が見られるようになるなど、新たな運動への関心が高まり、運動習慣の改善が見られた。
- 児童生徒の感想より（一部抜粋）
 「正しいフォームが怪我の予防につながることを知り、自分に合ったフォームや動き方で、怪我のない健康な体づくりをしていきたいと思いました。」
 「アスリートの方々の基本的なルーティーンや、ストレッチ方法、交代浴などの健康法を知ることができたので、自分の生活で試してみたいです。」
 「アスリートの人でも小まめにストレッチやクールダウンを行って自分の体を管理していることを知ったので、私も部活が始まる前にしっかりストレッチをして、家に帰ったらクールダウンをしていきたいと思います。」
 「アスリートの方々の色々な食事方法や睡眠時間を知ることができたので、自分も試してみたいです。」
 「ラグビーというスポーツは後ろにしかパスを出せないのととても難しいと思ったけど、相手を抜いてトライするのは気持ちよかったです。またやってみたいです。」

7 実践において工夫した点
(事業の特色)

今年度は、昨年度のテーマ（スポーツを通じたインクルーシブな社会の構築）とは異なるテーマ（健康の自己管理）で取り組んだことで、児童生徒や保護者の本事業に対する関心をさらに高めることができた。

また、伝統的にバスケットボール等の球技が盛んな本校に、2019年ワールドカップで全国的に関心の高まったラグビーを体験できる場を設定したことで、多くの地域の方々が講演会、スポーツ教室の様子を見に来校され、とても盛り上がった。

<p>8 主な課題等</p>	<p>自身の健康管理については、今後もこの事業を継続する、しな いに関わらず、児童生徒、保護者等の意識化を引き続き図らな く てはならない。</p> <p>また、今年度行ったラグビー体験は、小学校体育科の授業にお ける教材化や授業実践の蓄積等につなげたい。</p> <p>事前の学習を含め、本事業の成功にはアスリートと学校、担当 する教育委員会等のネットワークをどこまで広げられるのかが 鍵となる。そのためには、昨年度、今年度の取組によって築いた 関係を今後も維持、発展させていくための事後学習の充実が重要 となると思われる。</p>
<p>9 来年度以降 の実施予定</p>	<p>東京オリンピック・パラリンピックに向けては、出場するすべ ての選手を応援する気持ちや、世界中から来日されるたくさん の人々を迎えるおもてなしの心の育成等を育むための学習を継続 して行いたい。</p> <p>大会後は、可能であれば今年度築いた関係をもとにして、実際 に本大会に出場した地元ゆかりのあるオリンピック・パラリン ピアンを本校に招いて講演やスポーツ教室を開催し、3年間の取 組の総決算としたい。</p>